

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	カナダ・トロント	
学校名	静岡東高校	氏名	長田詞葉	学年	3年

■ 留学計画の概要 / 誰もが自分らしく生きられる社会を目指す！

私の留学テーマは、「Rainbows rise, Borders fall ～多様性を越え、輝く社会の実現～」です。男女双子として育つ中で、幼い頃から性差を意識してきました。また、ダンスを通してゲイカルチャー発祥の **Waack** に出会ったことをきっかけに、ジェンダーや LGBTQ について深く知りたいと思うようになりました。しかし日本では、同性婚が認められていないなど制度面での課題も多く、当事者が安心して生きられる社会とは言い切れません。そこで、LGBTQ の権利が法的にも守られ、多様性が社会に根付いている**カナダ・トロント**で学び、静岡で誰もが自分らしく生きられる社会を実現するためのヒントを得たいと考え、留学に挑戦しました。



■ 留学中の活動内容 / LGBTQ 探究と Waack !

留学中は、多国籍な学生が集まる語学学校に通い、英語でのコミュニケーションを通してさまざまな価値観や文化的背景を持つ人々と交流しました。学校や街で **LGBTQ に関する意識調査**を行い、年齢や国によって考え方が異なることを知ると同時に、「**理解しようとする姿勢**」が人の安心につながることを実感しました。

また、LGBTQ コミュニティの中心地であるトロントのチャーチ・ストリートを訪れました。チャーチ・ストリートに限らず、トロントの街中には**レインボーフラッグ**が自然に掲げられ、人々が特別な意識をせずに自分らしく過ごしている姿が印象的でした。**LGBTQ の存在が日常の一部として受け入れられている社会の雰囲気**を、実際に肌で感じることができました。

さらに、現地のダンススタジオに通い、Waack のレッスンを受講しました。年齢や性別、国籍に関係なく、**誰もが歓迎され、自分らしい表現を肯定される空間**はとても温かく、ダンスで人とつながれることを実感しました。ダンスを通じた自己表現は、ジェンダーに縛られない在り方を学ぶ大切な経験となりました。

■ アンバサダー活動 / 日本の文化をダンスで伝える！

語学学校で行われたタレントショーに出演し、椎名林檎の「長く短い祭」に合わせて Waack ダンスを披露しました。日本語の楽曲であっても、リズムや表現の力が各国の留学生に伝わり、会場全体が一体となって盛り上がりました。その結果、優勝することができ、日本の音楽やカルチャーの魅力をも自分の表現を通して伝えられたことは、大きな自信につながりました。出演後には多くの人に声をかけてもらい、新しい交流が生まれたことで、挑戦することの大切さも学びました。



■ 成果と学び / Ally を増やす！

トロントでの生活を通して、LGBTQ が受け入れられる社会には、多様性が「特別なもの」ではなく、「当たり前なもの」として共有されている文化があると感じました。当事者から「理解しようとしてくれること自体がうれしい」という声を聞き、周囲に理解者や Ally がいることが、生きやすさにつながるのだと実感しました。

一方、留学前に行った静岡での調査では、若い世代を中心にジェンダーへの関心は高まっているものの、「何をすればよいかわからない」と悩む声も多く聞かれました。また、意識が変わっても法律や制度が変わらなければ生きづらさは残るという当事者の意見から、理解を行動につなげる難しさにも気づきました。

■ 今後に向けて / 大学でもさらに探究・発信！

来年度からは大学生として、これまでの留学で得た学びをさらに深めていきたいと考えています。大学では文化学や社会学の視点から、ジェンダーや LGBTQ を取り巻く社会構造や歴史的背景について学び、個人の意識だけでなく制度や文化が人の生きやすさにどのように影響しているのかを探究していく予定です。また、留学中に興味を持った「第三の性」や、地域ごとに異なるジェンダー観についても調査を進め、より広い視野で多様性を捉えたいと考えています。

その学びを、学内での発信やワークショップ、ダンスなどの表現活動を通して共有し、理解者や Ally を増やすことにつなげていきたいです。高校での探究を一つのゴールで終わらせるのではなく、大学での学び、そして将来の社会へとつながる探究として発展させていきたいと考えています。



本留学は、世界を知るだけでなく、自分の当たり前を見つめ直し、次の行動を考える大きなきっかけとなりました。留学は特別な人だけのものではなく、「もっと知りたい」「挑戦してみたい」という気持ちがあれば誰にでも開かれています。この報告書を読んだ方が、大学やその先での学びを見据えながら、留学という一歩に挑戦してみたいと思ってくれたら嬉しいです。